

医史学・医の人間学

《医史学研究室》

スタッフ

《客員教授》 山田裕道／大久保剛／坂井建雄

《准教授》 澤井直

《非常勤助手》 村上歩



▶ 主な研究テーマ

- ① 西洋医学史、近代以前と近代
- ② 日本医学史、とくに江戸期以降
- ③ 医学教育史、とくに順天堂

▶ 主な研究内容

日本で唯一の医史学研究室

順天堂大学医学部医史学研究室は、1962（昭和37）年、医療の最先端を担う場にこそ、医の歴史を真摯に学ぶ研究の場が必要、という小川鼎三の強い意思によって創設された。

初代教授小川鼎三は、日本を代表する脳解剖学者であり、小細胞性赤核の機能解剖学研究で学士院賞を受賞している。東京大学医学部教授時代から医史学に関心を寄せ、解剖学の歴史を中心に研究を進め、名著『医学の歴史』（中公新書、1964、毎日出版文化賞受賞）など、医史学上の業績も多い。

第二代教授酒井シヅは、小川と共に克明な資料調査と実地踏査を行い『順天堂史』の編纂にあたった。この他、『日本の医療史』（東京書籍、1982）、『全現代語訳 解体新書』（講談社学術文庫、1982）、『病が語る日本史』（講談社、2002）などを上梓している。

本研究室は、日本の医史学研究の拠点として、また、日本の医科系大学において「医史学」の名を掲げる唯一の研究室として、狭い範囲や専門にこだわらず、医史学を研究したいと望む人たちに広く門戸を開いてきた。

現在の常勤教員の澤井は以下の研究テーマを専門としている。

- ① 西欧の医学史、特に医学知識の医学者間の伝播および医学以外の分野との影響関係
- ② 西欧および日本の医学用語・解剖用語の変遷
- ③ 明治以降の医学教育制度

大学院での指導にあたっては、入学者の関心や学問的背景に即した研究テーマの設定を重視している。

